

さくら



令和6年9月2日(月)

縁を生かす



皆さんは、剣豪(剣術でとても強い人)と呼ばれている歴史上の人物を知っていますか。宮本武蔵、千葉周作、坂本竜馬などをあげる人もいることでしょう。その中に柳生宗矩(やぎゅうむねのり)という江戸時代初期の剣豪がいます。

彼は元亀2年(1571年)、現在の奈良県柳生町(やぎゅうちょう)に生まれました。武士階級だったのですが、父の代に豊臣家に領地を奪われてしまいます。しかし、文禄3年(1594年)、黒田長政の仲介で徳川家康に仕えることになりました。その後は、2代将軍秀忠、3代将軍家光の兵法指南役(へいほうしなんやく)に抜擢され、やがて大名にまで出世するのです。

兵法指南役とは、戦いのノウハウや戦略を教える人のことです。一剣士から大名まで上り詰めたのは、歴史上では彼だけではないでしょうか。彼が大出世できたのは、縁を最大限に生かしたからだと言われます。

宗矩は次の言葉を残しています。

「小才(しょうさい)は縁に出会って縁に気づかず。中才(ちゅうさい)は縁に気づいて縁を生かさず。大才(たいさい)は袖すり合う縁も生かすもの」

今の言葉に訳せば次のような感じになるでしょうか。

「才能が乏しい人は、縁があっても気づかない。普通の人には縁があることには気づいても、それを生かすことができない。才能のある人は、どんな小さな縁でも見逃さずに大事に生かしていく」

ここで言う才能とは、持って生まれたセンスや性格よりも、日々の努力によって得られた能力によるものだとは私は考えます。

また、縁とは人との出会いもありますが、さまざまな出来事との出会いでもあるのです。それらの一つひとつを敏感に感じ、大切にし、人と出来事に感謝できれば、私たちの道は自ずと開けていくのです

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

